

# MUSABI *information*

Musashino Art University Information

August 2023

特集1 学長インタビュー

**新学長 樺山祐和教授と今後のムサビ**

特集2

**通信教育課程 吉川民仁教授インタビュー**

4 学科紹介 [工芸工業デザイン学科]

6 授業紹介

7 卒業生紹介

10 NEWS

[在学生保護者向け教育懇親会・インフォメーション]

11 本学関連施設展覧会情報

12 2023年度後期学事予定／お問い合わせ先





特集1 学長インタビュー

## 新学長 樺山祐和教授と 今後のムサビ

今年度より学長に就任された  
樺山学長にインタビューを行いました。

武蔵野美術大学 学長

**樺山祐和**

インタビュー・文責 福島あかり



**樺山祐和**  
KABAYAMA Sachikazu

- 1958年 福岡県生まれ
  - 1983年 武蔵野美術大学造形学部  
油絵学科卒業
  - 1985年 武蔵野美術大学大学院修士課程  
造形研究科美術専攻油絵コース修了
  - 2009年 武蔵野美術大学造形学部  
油絵学科教授に就任
  - 2023年 武蔵野美術大学学長に就任
- 専門分野 絵画

学長としての意気込み、これからムサビをどう変化させていきたいかを教えてください。

今後のムサビ、学生に期待することを教えてください。

ムサビは、教員と学生の距離感が本当に近い大学だと思います。教えることが好きで、情熱を持っている教員が多い。それがムサビの教育現場の熱を作っている原因のひとつだと思います。私は学長として、今以上に学生一人ひとりにいい授業、いい教育を施していくことが、何よりも重要だと思います。学長に就任する前に造形学部長を四年間務めました。四年間のうち三年間は、ほとんどがコロナの対応に追われた時間でした。この三年間に、授業時間の組み替えや全体のカリキュラムをコロナ対応に変えて、学生たちの学びをどのように作っていくかや、いかに安全を確保するかを検討していました。学生に限らず教職員も含めた学内全員の安全確保については最も気を使いましたね。まずは安全をどのように作っていくか、その上でどのように学びを止めないのかということに腐心した造形学部長時代だったと思います。

コロナ禍によって、通常授業以外にも国際交流や社会連携など様々な活動が止まってしまいました。そういった様々な活動を、コロナ禍前のようにしていきたいと考えています。

一方で、コロナ禍によって私たちは「オンラインとは何か」に気がついたのではないかと思います。オンラインには、場所を限定せずに授業を受けられる効率的な良いところもあり、オンラインの良いところを取り入れて新しい学びの形を考えていくことも必要だと考えます。一方で、私は大学での教育は基本的に対面が良いと考えています。特に美術大学は実際に作品を見て、触って、ということがとても大事だと感じます。美術は五感を研ぎ澄まして、いわゆる第六感のような五感の外側にある感覚をどう発動させるかということが重要ですよ。オンラインは基本、言葉の世界なので、視覚と聴覚以外は発動しない。知識は増えますが、野生の勘はどんどん退化していくように思います。美大生にとってこの野生の勘や第六感といった感覚は、鑑賞や制作で非常に重要です。造形感覚の醸成にはそのような感覚が必要だと考えているので、オンライン授業と対面授業の良いところを取り入れながら、授業全体をさらに良くしていきたいですね。アフターコロナでの、新しいムサビを作っていくことが私の学長一年目になるのではないかと考えています。

こういう言い方をして良いのか分かりませんが、私は「大学を良くしよう」という言い方はあまりしたくないですね。それよりも「世界一の学生を育てたい」「ムサビ生が世界一になれば良い」と考えています。世界一の学生を輩出できるような大学になれば、おのずと世界一の大学になっていくのではないかと思います。ムサビがどうなればいいのかというよりも、卒業生や在学生在がどんな風に美術やデザインというものを通して自己実現をして、その過程で、その人の生き方が社会や世界の豊かさにどう寄与していけるのかということの方が重要なのだと思います。これが私のムサビへの願いですね。

学生と保護者の皆さまへのメッセージをお願いします。

美術やデザインは様々な目的がありますが、それは人間をベーシックなところで豊かにしていくものだと思います。デザインをする人、絵を描く人、彫刻をする人、そしてそれを見る人、それに携わる人。美術やデザインに関わるすべての人たちを豊かにし、大きさに言えば救っていくものだと思います。美術をやっている人はまず自分が救われるのです。心のとても深い真ん中のところで、人間そのものを作っていくものなのです。そういったことを保護者の方々に理解していただけると嬉しいですね。アートとデザインは少し違う点もあると思いますが、今の学生は卒業してすぐに成功したい、と結果を求めすぎていると感じます。失敗をしたくないと思っている。しかし、むしろ失敗やうまくいかなかった時こそ、色々なことを考える。この視点をどこかで持っていてほしい、長い目で見てほしいな、と思います。世の中は厳しいので、必ずうまくいかないときは来る。その時に、自分がどのように行動できるかということが重要です。心の余裕がないと、どうしても失敗や挫折に飲み込まれてしまうから。そこで「まあ、いいか」くらいの感じで、余裕を持てることは大切ですね。人生を長い目で見て「この失敗は次につながるものなんだ」と思える自分をぜひ大学四年間で養ってほしいと思います。



# 学科紹介

本学は造形学部と造形構想学部の2学部、絵画、彫刻からデザイン、建築、映像、芸術文化、社会課題解決まで、美術・デザインの広がりをもつ12学科を擁します。本誌では、毎号一つの学科を取り上げ、その学科内で行われている授業やアトリエ・工房等の施設、所属教員をご紹介します。

## 工芸工業デザイン学科

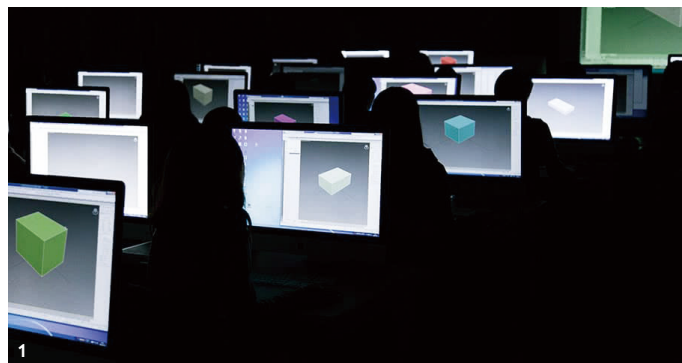
工芸工業デザイン学科では、人間の生活すべてのコトとモノに関わりを持ちながら、心地よい暮らしを実現するための豊かな感性と幅広い知識、問題意識を養います。より望ましい社会生活全体を構築するインダストリアル（ID）。人を取り巻く環境を見つめ、思考するインテリア（INT）。素材と格闘し、技の大切さ、質を見極める眼を養うクラフト（CD）。この3つのコースから構成され、高い専門性を持つ教員と共に、領域を超えてものづくりを追求できる環境を整えています。

### 施設紹介

本学科は、都市計画道路新設に伴い、2016年に竣工した14号館にインダストリアルデザインコースとクラフトデザインコースの4専攻が移転。その後、新たに建設された16号館に、インテリアデザインコースとテキスタイル専攻が移転し、現在は、本学科すべてのコースが北キャンパスで授業を行なっています。14号館には、3DプリンターやCADなどを備えたインダストリアルデザインコースの実習室をはじめ、陶磁、ガラス、金工、木工の各専攻の素材に合わせた専門性の高い設備の工房が並び、学生たちが真剣に制作に取り組む姿を見ることができます。また、インテリアデザインコースおよびテキスタイル専攻の実習室や工房が大部分を占める16号館では、学生たちが学年を越えて交流し、互いに刺激し合いながら制作に取り組んでいます。身の回りのもので作れないものはないと言えるほど、充実した機材や道具が揃った本学科の施設は、学びの場であると同時に、豊かな発想を喚起する創造空間となっています。

### 授業紹介

2年次後期より、インダストリアル・インテリア・クラフトの各コースに分かれ、より専門性の高い学びを目的とした課題に取り組めます。例えば、クラフトデザインコースのテキスタイル専攻では、伝統技法から最新技術まで、素材や道具に幅広く触れながら、繊維や布にまつわるもの作りの基礎を習得。3年次からは、各課題の目的に合わせてリサーチを重ねながら、柔軟な感性と発想力を養い、独自性を持った作品の制作に取り組めます。3年次最後の授業は、卒業制作も念頭に置きながら、ひとつの展覧会を全員で作上げるグループワークです。共通のテーマを設定するためのディスカッションは、他者の思考に触れることにより自分自身を理解するきっかけとなります。個人制作の中で独自性を模索しながら、客観性や社会性を持つことにも意識を向け、制作に至るまでのプロセスも重視した授業となります。



左：ディスカッションを重ねテーマを決定する  
右：ギャラリーに見立てた実習室でのプレゼンテーション





学科紹介

工芸工業デザイン学科専任教員

高橋理子 教授

アーティスト。正円と直線によるソリッドなグラフィックが特徴。着物を表現媒体としたアートワークのほか、オリジナルブランドHIROCOLEDGEにおいて、日本各地のメーカーや職人とともに様々なもの作りを行なう。国内外での展覧会、講演等のほか、コラボレーション、デザインワーク多数。

高橋理子 TAKAHASHI Hiroko

1977年 埼玉県生まれ  
 2006年 株式会社ヒロコレッジ(現 高橋理子株式会社) 設立  
 2008年 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程  
 工芸専攻染織研究領域修了 博士号(美術) 取得  
 2019年 ロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館に作品が永久収蔵  
 2021年 本学着任



- 1 ID PCルーム
- 2 ID デジタル工房
- 3 木工実習室
- 4 ガラス工房
- 5 陶磁工房
- 6 金工房
- 7 INT 実習室
- 8 テキスタイル工房



PROJECT- PORTRAIT- (2013)  
 自身が着物姿で仁王立ちをしている写真作品

教員の研究内容

「有限から生まれる無限の可能性」をテーマに、正円と直線という最低限のモチーフで表現を続けています。円という形は、性別や世代、国籍、人種、あらゆる枠組みを超えて存在するもの。途切れず無限につながり続けるその形を、イタリアの美術家ブルーノ・ムナーリ(1907-1998)は「円は永遠の神秘、神様の形」と表現しています。

東京藝術大学在学中に、着物の合理的で無駄のない構造に魅了され、衣服としてのみならず、表現媒体としての存在の強さに可能性を感じ、これまで様々な形で取り組んできました。着物が持つ歴史や伝統。多様な伝統染織技法とその技。そして、それを取り巻く様々な問題。着物を起点に思考を深め、作品制作やコラボレーションなどのプロジェクトに向き合ってきました。その中で、小さな気づきや些細なことへの疑問が湧き上がり、社会の偏見や固定観念に苛まれた経験から、「固定観念を覆し思いを巡らせるきっかけを生み出す」ことをコンセプトに掲げるに至りました。

時にデザインと呼ばれる手段を用いて「もの」を生み出し、それを通して、社会に刺激を与え、考えるきっかけを生む。表現者として生きる中で、日々の小さな違和感を見逃さず、思考を常に巡らせ、世の中の当たり前前に立ち向かうこと。それが、私のライフワークです。

教員メッセージ

多くの学生が、「過去」を振り返り、「今」に悩み、「未来」が見えないと言う。この先も続く長い人生の中で、最も美しく輝けるであろうこの時を、鬱々とした気分でも過ぎて欲しくない。そんな気持ちで学生と日々対峙しています。将来の理想像を思い描くことを促し、それに向けて、今何をすべきなのかを導き出す。日々の選択と決断に迷う学生たちと対話をしながら、多くの問い掛けをすることで、学生自身が自分の力で答えに到達できるように努めています。作品制作に伴う技術的な指導や、素材の扱い方や表現方法に関する知識と経験の共有は当然のことながら、豊かな人生を歩むための思考力を養う深度のある対話も大切であると考えています。

左:  
 着物 REN-PI (2007) /  
 ROCK (2009)  
 右:  
 adidas×HIROCOLEDGE  
 HIROKO TAKAHASHI  
 COLLECTION (2021)





# 授業紹介

武蔵野美術大学には、自身が所属する学科別の専門科目のほかにも、様々な授業科目があります。その授業内容の一部をご紹介します。

## 教職に関する科目／文化総合科目（全学共通科目）

【教職に関する科目・博物館に関する科目】教員免許状・学芸員資格取得希望者が履修する科目です。

【文化総合科目（全学共通科目）】全学科を対象とした、幅広い分野・領域について学ぶ科目です。

### 教職に関する科目

#### 美術教育法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ, 教育方法, 美術教育法題材開発ほか

教職課程

三澤一実 教授

美術教育法は中学・高校の美術科教員免許を取得するための授業です。ムサビの中でも免許認定課程のある学科で、教員免許を取得する意志のある学生が受講できます。授業では美術教育の歴史や思想、学生自身が今まで受けてきた学校教育を振り返り、自己形成に美術教育がどのように関わってきたのかを、講義や議論、演習などを通して批判的に捉えていきます。学生はこれまで歩んできた自己を見つめ、学校教育での美術の役割について理解し、さらには美術を学ぶことを通じて社会とどのように主体的に関わっていくかを考えるようになります。教師という職業は作品制作と同じように、豊かな未来をつくり出していく創造性を持っていることに気づいていきます。



### 文化総合科目

#### ロボティクス演習Ⅰ

教養文化・学芸員課程研究室

青木俊介 教授

本演習では、美大生ならではの感性を活かし、ロボティクス（ロボット工学）を活用した表現を実践することを狙いとしています。「自分の欲しいパートナーロボットを作ろう」というテーマで、各自がアイデアをふくらませて、実際のロボットの製作に取り組んでいます。プログラミングや制御工学の素養が無い学生でも、センサーとモーターを組み合わせることで動くことができるよう、オリジナルの開発キットを活用しているところも特徴となっています。ロボットは人の感情に訴えかけることのできる装置ですが、そのデザインはまだ分野として確立されていないのが現状です。工学系の人材だけでなく、美大からも大きな貢献をしてくれるような人材が出てくることを大いに期待しています。



上：学習指導要領について学ぶ（美術教育法Ⅰ）

下：タブレットを使ったアニメーションの授業づくり演習（美術教育法題材開発）



上：教室での授業の様子

下：作例「実家にいるわんこがちゃんと元気か」しっぽの動きで確認できるロボット



column ムサビ生の卒業後の活動をご紹介します。

# むさびと 武蔵美人

“むさびと”とは武蔵野美術大学を卒業し各方面で活躍している人達のこと。  
企業への就職、独立、制作活動……、形は違えど皆社会に出て頑張っています。  
このコラムでは企業で活躍する若手の“むさびと”を取り上げ紹介しています。  
ムサビ生の卒業後の可能性や広がりを見つけてください。

## “いろんなことをやっていい”と学べたから 自分のやりたい領域で力を発揮できる

株式会社夏水組 代表取締役 空間デザイナー

坂田夏水さん

2004年 建築学科 卒業

店舗や住宅の内装デザインからコンサルティングや不動産業務、インテリアショップの運営など、仕事の幅が広いので「何屋さんなの?」とよく聞かれますが、すべてに共通しているのは「インテリア」です。ムサビを卒業後、アトリエ系設計事務所ですぐに建築業界の複雑な構造が見えてきて、根っからの“知りたい欲”がかき立てられました。施工をもっと勉強したくて工務店に転職し、設計、現場管理、施主や不動産屋とのやり取りなど、建築のいろはを学ぶことができたので、今度は不動産業務に挑戦しようと転職したのですが、リーマンショックの影響から半年で倒産。それをきっかけに28歳で立ち上げたのが夏水組です。仕事でお世話になった方々の支援もあって事業を軌道に乗せることができ、今では店舗のデザインやプロデュースだけでなく、住宅設備建材メーカーの商品開発の監修にも携わっています。ここ数年は日本の和の建材の魅力を広く伝

えることを目標に、襖紙を自社ブランドで展開し、フランス・パリでインテリアショップも開店いたしました。建築学科の同期は建築に限らず多方面で活躍していて、私のように経営者として自分のやりたい領域で力を発揮している人も多くいます。その理由について、はっきりと答えは出せませんが、「火星移住計画を考える」みたいに自由度の高い課題に取り組んだり、芸術祭で思う存分楽しんだり、「いろんなことをやっていい」と身をもって学べる環境だったからなのかなと感じています。

(2022年1月の取材をもとに再構成)

2008年に夏水組を立ち上げ、2013年には東京・西荻窪にDIYショップ「GONGRI」を出店。現在は「Decor Interior Tokyo」(左下写真)として東京・吉祥寺にて営業中。壁紙や塗料など定番DIYグッズ、床材や照明を揃え、ワークショップも開催している。また2022年、日本の古き良き伝統建材を流通させるべく、フランス・パリにて新店舗「BOLANDO」をオープン。



Decor Interior Tokyo







特集2

## 通信教育課程 吉川民仁教授インタビュー

2023年度末の武蔵野美術大学吉祥寺校閉校に伴い、通信教育課程は2024年4月に通学課程と同じ鷹の台キャンパスへ移転します。それに伴い、通信教育課程 吉川教授へインタビューを行いました。

表現演習の授業風景、レクチャーの様子

### 長い歴史を持った吉祥寺校から 鷹の台キャンパスへの移転に対する思い

僕が大学院の時（1989年）に、大学の環境デザインセミナー「都市のかたち」で吉祥寺キャンパスに行く機会があって、その時に「あ、ここがムサビの発祥の地なんだな」と強く感じていました。実際に吉祥寺キャンパス前の通りには、わざわざ「美大通り」って名前がつけられているんです。それから通信教育課程の非常勤講師や専任教員を経験する中で、愛着みたいなものが湧いてきて、やはりここに通えなくなるんだって言うのは、少し寂しい気持ちがありますね。

ただ、今までは夏期スクーリングの時でないといづらかった美術館・図書館などの鷹の台キャンパスにある様々な施設を使用できるのは、学生にとって非常に良い機会だと感じています。

### 通学課程と同じキャンパスになることで期待すること

通信教育課程の学生さんは働きながら学んだり、リタイア後に学び直しをしたり、年齢層やバックグラウンドが幅広いので、通学課程の学生さんと互いに交流することがあれば、それは面白いと思いますね。キャンパス内で色々話すような機会があったら良いなと思います。

また、学び方が通学の学生と通信の学生は違いますよ

ね。通信教育課程は、自己責任で課題と向き合っていくような学習スタイル。自宅で自分一人で履修を組み立て、課題をし、単位を取得しています。自分に甘くなると単位が取れない仕組みなので、学生さんは短時間のうちに沢山のことを学び取ろうとする意欲がかなり強いと感じます。そういった意味で、どこかで通信の学生さんの学んでいる姿や姿勢っていうのを見てもらう機会があれば、良い刺激になるのではないかと思います。

### 授業のご紹介

表現演習の授業は学科専門コース3年次必修科目で、2日間の講義系の授業になります。内容はさまざまな作家の研究を例にあげながら、卒業制作までの計画を立てることを目標にしています。授業の中では絵画表現に向かう上で、テーマやモチーフ、素材や手法など、それぞれが見出していかなければならないことを意識してもらいます。卒業制作の画像を見ながら作例を考察し、自身の表現の手がかりとしてもらうことや外部から作家をゲスト（今年度は遠藤彰子先生）として招き、自作を中心にレクチャーもしてもらっています。また、卒業制作に向けてのガイダンスも行い、それぞれが卒業制作に向けて計画的に準備を進める必要性を理解してもらう授業です。





表現演習の授業風景、今年度は本学名誉教授の遠藤彰子先生（写真右）を招聘



昨年おこなったギャラリーためながパリの個展風景



自宅アトリエ風景



個人研究室にある三雲祥之助先生の作品資料など

### 教員の研究内容

私自身の研究内容としては基本的には絵画の制作になります。現在は油絵具を重層的に扱いながら画面を構築しており、日常、目にする季節の移り変わりや断片として残る記憶などをモチーフにして、絵画としての主題の在りかを探求する内容です。具体的な制作方法としては木枠に張り込んだキャンバスに左官職人が使う大型の左官ゴテを使用して油絵具を塗りつける作業になります。ある程度の計画をして制作を行いますが、予想通りになることが大事なのではなく、想定外のことやアクシデントを伴いながら作業をすることで、未知の絵画空間が生まれてくるのが制作を続ける上で大きな魅力になっています。

また、延べ25年ほど絵画修復の仕事に携わっていた関係で、本学着任前に四ツ谷にある迎賓館赤坂離宮の壁画と天井画の修復業務に関わらせてもらいました。2年がかりの大仕事でしたが所属していた修復工房で力を合わせて仕事ができたとともに思い出深く残っています。そんなことから、三雲祥之助先生のアトリエに残っていた作品群も何故か、何とかしろと言わんばかりに自身の個人研究室に預かっている状態です。鷹の台に個人研究室が移ってから徐々に修復作業をしていこうと考えているところです。

武蔵野美術大学通信教育課程・  
通学課程油絵学科 教授  
吉川民仁 YOSHIKAWA Tamihito

- 1965年 千葉県生まれ
- 1991年 武蔵野美術大学大学院 造形研究科油絵コース修了
- 1992年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科研究室  
助手（-96年3月まで勤務）
- 2010年 武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 非常勤講師
- 2018年 武蔵野美術大学 通信教育課程・  
通学課程 油絵学科の教員として着任





## NEWS 1

## 2023年度 在学生保護者向け 教育懇談会を開催しました。

在学生保護者向け教育懇談会を2023年度オープンキャンパス実施日である、7月15日(土)に開催いたしました。今回は、本学の教育紹介、近年の就職動向に加え、課外活動を紹介しました。



## NEWS 2

## インフォメーション

### 油絵学科版画専攻が グラフィックアーツ専攻に名称変更

本学の油絵学科グラフィックアーツ専攻に名称を変更しました。絵本やイラストレーション、写真、映像、立体など、アナログやデジタルを問わず、あらゆる複製メディア表現にその規範を広げる中、版画というアートの領域とデザインの領域が重なり合う新たな学びへ挑戦します。詳細は、以下グラフィックアーツ専攻特設サイトよりご確認ください。

<https://ga.musabi.ac.jp/>



### 令和5年度入学式を挙行

2023年4月3日、令和5年度入学式が挙行されました。今年度も、新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、対象学科を分け、午前・午後2部の2部制での実施となりました。学長式辞や教員からの祝辞は、以下サイトよりご確認ください。

[https://www.musabi.ac.jp/student\\_life/event/mc/](https://www.musabi.ac.jp/student_life/event/mc/)



### 2022年度事業報告および 2023年度事業計画を公開

以下webサイトよりご確認ください。

<https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/report/>



### 2022年度決算報告および 2023年度予算を公開

以下webサイトよりご確認ください。

<https://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/financial/>

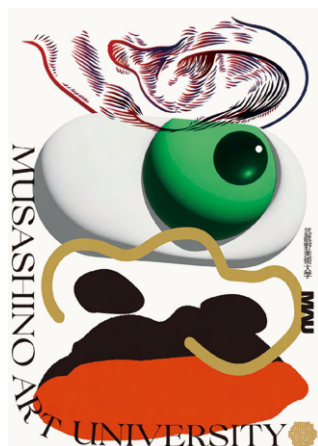


### 2023年度イメージポスターを公開

2023年度大学イメージポスターおよびコンセプトを公開しました。イメージポスターのアートディレクターは、2022年度同様、本学卒業生(大学院造形研究科修士課程デザイン専攻視覚伝達デザインコース修了)で、株式会社ラボラトリーズ代表取締役、視覚伝達デザイン学科講師の加藤賢策氏です。

コンセプト:「感覚おぼけ2023」

感覚を総動員して世界を楽しむ力強さ。あらゆる表現を用いて世界と向き合うたくましさ。はたから見ると奇妙に映る時もありますが、やっぱりそれでいいのです。



### ワーキングスペース「Ma」を開設

2023年6月8日、ワーキングスペース「Musashino Art University Co-Creation

Space-Ma-」(以下、Ma)を本学市ヶ谷キャンパスに開設しました。Maでは、ワーキングスペースの運営に加え、若手のクリエイティブ人材のコミュニティを形成することで、従来の大学の枠に捉われない拠点となることを目指し、企業・自治体との共創の推進や、創造性リカレント教育の拡充に取り組んでいきます。また、このコミュニティを、キャンパスを中心に展開し、クリエイターとして活動できるフィールドの広さを本学学生や卒業生に伝えることで、起業・創業支援、卒業生支援を行い、自身のキャリアプランを支える場としていきます。

<https://ma.musabi.ac.jp/>



### 鷹の台・市ヶ谷の両キャンパスでオープンキャンパスを開催

2023年7月15日-16日に鷹の台キャンパスにて、7月29日-30日には市ヶ谷キャンパスにて、来校型オープンキャンパスを開催しました。教職員・学生への相談会や、学内ツアー、トークイベントやワークショップが開催され多くの受験生が来校しました。



### 芸術祭を開催(予定)

2023年10月27日-29日に鷹の台キャンパスにて芸術祭を開催します。詳細は今後芸術祭webサイトにて公開予定です。

<https://geisai.jp/>





## 本学関連施設展覧会情報

2023年8月後半 - 2024年3月の予定

### 美術館

大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内  
月・火・木・金 [祝除く] 11:00 - 19:00  
土・日・祝 10:00 - 17:00

<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>



\* 会期・時間を変更、あるいは予約制を導入する場合があります。  
最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

生誕100年 大辻清司 9月4日 [月] - 10月1日 [日]

眼差しのその先 フォトアーカイブの新たな視座

大浦一志 — 雲仙普賢岳 / 記憶の地層 9月4日 [月] - 10月1日 [日]

西田俊英 — 不死鳥 10月23日 [月] - 11月19日 [日]

助教・助手展2023 武蔵野美術大学助教・助手研究発表 12月4日 [月] - 12月23日 [土]

### 民俗資料室

民俗資料室は民俗学者・宮本常一 [1907 - 1981] [1965 - 1977 本学教授] の指導により収集された約9万点の生活造形資料をコレクションの中心としています。収蔵資料の活用と公開を目的に企画展を開催しています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内  
収蔵庫見学 火・木

<https://mauml.musabi.ac.jp/folkart/>



\* 最新の情報は右記webサイトをご確認ください。  
\* 展覧会の開館日時は、美術館開館日時に準じます。

### gallery αM

本学が運営するノンプロフィットギャラリー。ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供することの2点をコンセプトとしています。

東京都新宿区市谷田町1-4  
武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 2F  
火 - 土 [祝除く] 12:30 - 19:00

<https://gallery-alpham.com/>



開発の再開発  
vol. 2 近藤恵介

2023年7月29日 [土] - 10月14日 [土]  
(夏季休廊: 8月13日 - 8月28日)

vol. 3 Sabbatical Company  
vol. 4 松平莉奈

2023年10月28日 [土] - 12月23日 [土]  
2024年1月20日 [土] - 3月16日 [土]

\* 会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は上記webサイトをご確認ください。

### 杉浦康平デザイナーアーカイブ

「デザイン・コスモス」

リニューアル・オープン!!

杉浦氏の創作活動をほぼ網羅する、当館所蔵の特別コレクション「杉浦康平デザイナーアーカイブ」。そのインターネット版ヴィジュアル作品集「デザイン・コスモス」を、2023年6月にリニューアルいたしました。今回は、杉浦氏がその可能性を探求し続けた「雑誌デザイン」を究明することを主題としています。また、サイトの顔(トップ画面)は、「ただならぬ雑」がうごめきざわめく宇宙空間として創生し、様変わりさせました。ぜひお楽しみください。

[https://collections.musabi.ac.jp/sugiura\\_kohei/](https://collections.musabi.ac.jp/sugiura_kohei/)



### 「『前衛』写真の精神:

なんでもないものの変容

瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄」展、全国を巡回中

当館でアーカイブを所蔵する写真家・大辻清司は、2023年に生誕100年を迎えました。大辻に大きな影響を与えた瀧口、阿部、さらに大辻から薫陶を受けた牛腸らとの創作と交流を辿りながら、1930 - 80年代の日本昭和写真史の一断片を紹介する展覧会が全国各地を巡回いたします。

お近くの方は、ぜひお立ち寄りください。

新潟市美術館

7月29日 - 9月24日

渋谷区立松涛美術館

12月2日 - 2024年2月4日

(いずれも予定)

\* 当館では「生誕100年 大辻清司 眼差しのその先 フォトアーカイブの新たな視座」(9月4日 - 10月1日)を開催いたします。



### 美術館・図書館 Instagram はじめました

6月より運用を開始しました。美術館、図書館、民俗資料室、イメージライブラリーの活動情報を発信しています。ぜひ、ご家族みなさまでフォローをお願いいたします。

[https://www.instagram.com/mau\\_m\\_1/](https://www.instagram.com/mau_m_1/)



## 2023年度後期学事予定

7月	24日-9月2日	夏季休業：鷹の台
	31日-9月2日	夏季休業：市ヶ谷
9月	4日	後期授業開始：鷹の台 第3ターム授業開始[-10月21日]：市ヶ谷
	18日	敬老の日は授業日
	23日	秋分の日は授業日
10月	9日	スポーツの日は授業日
	27-29日	芸術祭(対面型開催)
11月	6日	第4ターム授業開始[-1月13日]：市ヶ谷
	23日	勤労感謝の日は授業日
12月	16日	後期授業終了：鷹の台
	18-23日	後期補講・講義科目定期試験週間
	25日-1月6日	冬季休業
1月	8日	成人の日は卒業制作・論文の提出・採点日
	12日-15日	卒業・修了制作展：鷹の台
	26日-28日	卒業・修了制作展：市ヶ谷
2月	未定	東京五美大連合卒業・修了制作展(国立新美術館)
3月	15日	卒業式

\*上記予定は変更になる可能性もあります。  
最新情報は右記大学webサイトをご確認ください。

<https://www.musabi.ac.jp/>



## ご寄付のお願い

## 教育振興資金

教育環境や修学サポートの充実など、  
用途を指定いただける寄付制度です。  
本学が100周年に向けて大学改革を着実に進め、  
一層の発展、充実を図るために、なにとぞ  
力強いご支援ご協力をお願い申し上げます。  
[https://www.musabi.ac.jp/  
outline/about/contribution/](https://www.musabi.ac.jp/outline/about/contribution/)



## MAU 古本募金

「古本から未来をつくるプロジェクト」  
現金での寄付とは異なり、不要となった  
書籍等をお送りいただき、その買取金額を  
学生支援のための給付型奨学金に  
活用させていただき取り組みです。  
<https://www.charibon.jp/partner/musabi-u/>



## お問い合わせ先

事務取扱時間 9:00-16:30 [昼休み12:40-13:40、日・祝除く]  
下記事項などについて質問がございましたらお問い合わせください。  
お問い合わせ先が分からない方は代表(総務チーム)までご連絡ください。  
総務チーム 042-342-6021

内容	お問い合わせ先	連絡先
本誌について	広報入学チーム (広報担当)	042-342-6038 koho@musabi.ac.jp
学籍、授業、試験、成績 教職・学芸員課程、単位互換 卒業制作展	教務チーム	042-342-6044
学費の納入	経理チーム	042-342-6042
奨学金 学生生活・課外活動	学生生活チーム	042-342-6028
健康相談、健康診断	保健室	042-342-6029
進路・就職、インターンシップ	キャリアセンター	042-342-6048
留学、留学生サポート、国際交流	国際チーム	042-342-6037
入学式・卒業式	教学企画チーム	042-342-6011
美術館、図書館 民俗資料室、イメージライブラリー	美術・図書チーム	<a href="https://mauml.musabi.ac.jp/">https://mauml.musabi.ac.jp/</a> 
gallery α M	gallery α M	<a href="https://gallery-alpha.com/">https://gallery-alpha.com/</a> 

## 表紙作品 作者紹介

表紙では、本学助教の作品をご紹介します。  
助教とは各研究室において、学生の  
指導や、教授の職務補助など行う教員で、  
学生にとっては身近な存在です。

制野 郁弘 SEINO Fumihiko

基礎デザイン学科 助教  
アーティスト

2017年 武蔵野美術大学 基礎デザイン学科 卒業  
主な素材として木材を使用し、自然の風景や  
情景を想起させる作品を制作している。  
手作りによって生まれる  
柔らかい形を大切にしている。

〈表紙作品〉

タイトル：枝の器

制作年：2021

技法・素材：木材、染料、接着剤

武蔵野美術大学公式アカウントです。  
大学のニュースやトピックス等をお知らせします。



Twitter  
[https://twitter.com/musabi\\_koho](https://twitter.com/musabi_koho)



Instagram  
[https://www.instagram.com/musabi\\_koho/](https://www.instagram.com/musabi_koho/)



Youtube  
<https://www.youtube.com/@maumovie>



LINE  
<https://page.line.me/tcs81561>